

みる みる みる展

てんじぶつ せつめいしょ
〈展示物の説明書〉

横倉山自然の森博物館

ラベル 番号	資料	解 説(かいせつ)
黄 27	写真	オンツツジ 4月中旬
黄 28	写真	アケボノツツジ 4月中旬頃
黄 29	写真	<small>ひじりけいこく</small> 聖溪谷
黄 30	写真	<small>きりみかわ</small> 桐見川七夕祭り
黄 31	写真	ヒカゲツツジとトサノミツバツツジ 4月中旬頃
黄 32	写真	聖溪谷
黄 33	写真	桐見川七夕祭り
黄 34	写真	2tオート三輪(工事用砂利 <small>うんぱん</small> の運搬)昭和 34 年頃
黄 35	写真	<small>ひじりじんじゃ</small> 聖神社 昭和 34 年頃
黄 36	写真	秋の聖神社
黄 37	写真	オオタヲ山 <small>ヤマ</small> 周辺のみもじ
黄 38	写真	オオタヲ山からみた野見湾 <small>のみわん</small> (須崎市)
黄 39	写真	オオタヲ山からみた野見湾(須崎市)
黄 40	写真	高知新聞声ひろば投稿記事「聖神社」
黄 41	写真	オオタヲ山周辺のみもじ
黄 42	写真	<small>こびうら</small> 小日浦小学校運動会 昭和 30 年頃
黄 43	写真	<small>とりがたやま</small> 鳥形山 昭和 34 年頃

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
黄 44	こっかく 骨格	イノシシ メスの若い個体です。
黄 45	はくせい 剥製	イノシシ ^{ようじゅう} (幼獣) 体の縞模様は、生まれて3ヶ月くらいで消えます。
黄 46	剥製	ニホンカワウソ(メス) 四万十川流域にすんでいたと思われる個体です。 ※ ^{しまんとしきょうどはくぶつかん} 四万十市郷土博物館より借用 ^{しゃくよう}
黄 47	剥製	ニホンカモシカ 四国で分布が広がり、愛媛や香川でも確認されました。しかし、 ^{こたيسう} 個体数は減ってきていて、 ^{ぜつめつ} 絶滅が心配されています。
黄 48	剥製	ツキノワグマ ^{つるぎさん} 剣山で捕獲された個体です。その後、 ^{ためまつこうえん} 四万十市の為松公園で飼われていたメスです。 ※四万十市郷土博物館より借用
黄 49	剥製	アカギツネ 四国では最近増えているようです。越知町ではあちこちで見つかっています。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
黄 50	剥製	アカギツネ(亜成獣) ^{あせいじゅう} 越知町で生まれたと思われる個体です。
黄 51	剥製	シベリアイタチ けがわ 毛皮をとるために、人によって外国から連れてこられたイタチ です。
黄 52	骨格	シベリアイタチ スマートな体格で、狭いすきまに入りこめます。 ^{たいかく} ^{せま}
黄 53	骨格	スジイルカの首 けいつい 頸椎は一つ一つが薄くなっています。 ^{うす}
黄 54	剥製	ファイリマングース どくへび ^{たいさく} 毒蛇のハブ対策のために、 ^{おきなわ} ^{あまみ} 沖縄と奄美へ連れてこられた がいらいせいぶつ 外来生物です。
黄 55	剥製	アライグマ(幼獣) ^{ようじゅう} ペットとして北アメリカからやって来た外来生物。日本のあち こちで野生化しています。 ^{やせいか}
黄 56	剥製	タヌキ イヌの仲間。高知では脂をとられます。 ^{あぶら}

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
黄 57	剥製	ニホンアナグマ ミミズが大好き。越知町 ^{いまなり ち く と} 今成地区で捕られた大きなオスの成 ^{せい} 獣 ^{じゅう} です。
黄 58	骨格	ニホンアナグマ がっしりした体を支える ^{ささ} 骨組 ^{ほねぐ} みです。
黄 59	剥製	ニホンテン ^{なつ げ} (夏毛) 冬になるとぼんやりした ^{たいしよく} 体色に変わります。
黄 60	剥製	コウベモグラ 四国を含む西日本の ^{へいち} 平地から ^{さんち} 山地まで、 ^{しんりんない} 森林内や ^{のうこうち} 農耕地な どさまざまな ^{かんきょう} 環境にいるモグラです。
黄 61	骨格	コウベモグラ トンネルを ^ほ 掘ります。
黄 62	剥製	アズマモグラ 四国では高い山など限られた地域で見ついています。 ^{ひがしにほん} 東日本にはたくさんいます。
黄 63	剥製	ヒミズ 平地から山地まで広くいるモグラの ^{なかま} 仲間です。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
黄 64	骨格	ヒミズ トンネルはほとんど掘れ ^ほ ません。
黄 65	剥製	ヒメヒミズ 四国では高い山など限られた地域で見つ ^つ かっています。
黄 66	剥製	ニホンジネズミ 平地から山地まで広くいるモグラの仲間です。飼猫 ^{かいねこ} がよく捕 ^{つか} まえてきます。
黄 67	剥製	ニホンザル(幼獣) 越知町でも最近増えてきました。
黄 68	剥製	ハクビシン くだもの ^{くだもの} が好きな外来生物 ^{がいらいせいぶつ} で、ミカンやカキ、ビワ ^{この} などを好んで食べます。高知の人はこの動物を食べます。
黄 69	骨格	ハクビシン しっぽ ^{しっぽ} の先 ^{ほね} まで骨があります。
黄 70	剥製	ユキウサギ ほっかいどう ^{ほっかいどう} にすむウサギ ^{ほんしゅう しこく きゅうしゅう} で、本州・四国・九州のウサギとは別の種 ^{こたい} です。この個体は冬毛 ^{ふゆげ} から夏毛 ^{なつげ} にかわる途中 ^{とちゅう} です。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
黄 71	剥製	<p>ニホンリス</p> <p>高知県の注目種に指定されました。越知町では横倉山の上の方にいますが、仁淀川<small>によどがわ</small>のまわりなど低い所では見つかっていません。</p>
黄 72	骨格	<p>ヤマネ</p> <p>木の上にすむ、天然記念物<small>てんねんきねんぶつ</small>のネズミです。</p>
黄 73	剥製	<p>ヤマネ</p> <p>越知町では、まだ見つかっていません。</p>
黄 74	剥製	<p>アカネズミ</p> <p>森林にすむ野ネズミの代表です。</p>
黄 75	骨格	<p>アカネズミ</p> <p>おも<small>おも</small>に地上<small>ちじょう</small>で暮<small>く</small>らします。</p>
黄 76	剥製	<p>ヒメネズミ</p> <p>森林にすむ野ネズミで、木の上でも暮らします。</p>
黄 77	剥製	<p>スミスネズミ</p> <p>森林にすむ野ネズミで、地上で暮らしますが、地面の下も利用します。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
黄 78	剥製	ハツカネズミ 人の家に住みつくネズミで、乾燥 ^{かんそう} に強く、濃い ^こ 尿 ^{にょう} をします。
黄 79	剥製	カヤネズミ 草原 ^{そうげん} で暮らし、ススキの葉などで球形 ^{きゅうけい} の巣 ^す をつくります。
黄 80	剥製	ドブネズミ 人の家に住みつくネズミで、とても大きくなります。
黄 81	剥製	ヌートリア 毛皮をとる目的で人が外国から連れてきた動物 ^{ちゅうごく} です。中国 地方 ^{ちほう} で野生化していますが、かつて高知県でも捕まった 記録 ^{きろく} があります。
黄 82	剥製	ニホンノウサギ ペットで飼われているウサギとは、別の種類です。産まれた 子ウサギは、毛 ^は が生えそろう、目も開いています。
黄 83	骨格	ニホンノウサギ 長い足で、速 ^{はや} く走って敵から逃げます。
黄 84	剥製	ムササビ 夜行性 ^{やこうせい} のリスです。被膜 ^{ひまく} を広げて木から木へ滑空 ^{かっくう} します。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
黄 85	剥製	<p>ヤエヤマオオコウモリ</p> <p><small>しこく</small> 四国にはいないはずの動物です。しかし、「越知町で見た」という人がいます。</p>
黄 86	仮剥製	<p>テングコウモリ</p> <p><small>つ の ちよう てんぐこうげん</small> 津野町の天狗高原は、9月になると多くの<small>てんぐこうもり</small>天狗蝙蝠が集まります。</p>
黄 87	仮剥製	<p>コテングコウモリ</p> <p>高知県で初めて見つかった場所が、横倉山です。</p>
黄 88	仮剥製	<p>チチブコウモリ(オス)</p> <p>四国では高知県と愛媛県で2カ所ずつ見つっていますが、数はとても少ないです。</p>
黄 89	仮剥製	<p>チチブコウモリ(メス)</p> <p>高知県では、<small>か み し も の べ</small>香美市物部で2004年に見つかって以降、記録がありません。</p>
黄 90	剥製	<p>アブラコウモリ</p> <p>人の家に住みつくコウモリです。ときどき博物館の中に入り込みます。出られなくなって死んでいる時があります。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
黄 91	剥製	ノレンコウモリ 高知県では、天狗高原といの町のシラサ ^{とうげ} 峠でしか見つかっていません。
黄 92	剥製	キクガシラコウモリ ^{どうくつ} 洞窟でよく見かけるコウモリです。
黄 93	骨格	キクガシラコウモリ 強い顎 ^{あご} と鋭い歯 ^{すど} を持っています。ガヤカ、コガネムシもバリバリ食べます。
黄 94	剥製	コテングコウモリ 枯れた大きな葉っぱの中で、 ^{にちゆうす} 日中過ごしていることがあります。 ^{しゅうせい} この習性を利用した ^{ちょうさほうほう} 調査方法があります。
黄 95	剥製	ユビナガコウモリ 洞窟で大きな ^{しゅうだん} 集団をつくるコウモリです。 ^{ゆびなが} 指長の ^{つばさ} 翼で、 ^{よぞら} 夜空を飛び回ります。
黄 96	剥製	コキクガシラコウモリ 自然の洞窟や、かつてショウガをしまうために人がつくった ^{あな} 穴でも見つかります。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
黄 97	剥製	モモジロコウモリ 水辺でよく見かけるコウモリです。
黄 98	仮剥製	モリアブラコウモリ 高知県では天狗高原、横倉山、 ^{つるぎさんち} 剣山地で見ついているコウモリです。
黄 99	仮剥製	クロホオヒゲコウモリ 高知県では天狗高原と剣山地でしか見つからないコウモリです。
黄 100	仮剥製	クロホオヒゲコウモリ 天狗高原では ^{ひかくてき} 比較的多くの個体を確認しています。
青 65	仮剥製	ニホンウサギコウモリ ウサギのように長い耳を持つコウモリで、高知では天狗高原でだけ見ついています。
青 66	仮剥製	クロホオヒゲコウモリ 天狗高原では夏から秋にかけて見つかります。
青 67	仮剥製	クロホオヒゲコウモリ 昼間の休息場所は見つかりません。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
青 68	剥製	<p>サンコウチョウ(オス)</p> <p>5月中旬に子育てのために、高知県へ渡^{わた}ってきます。メスの尾羽^{おばね}は短いです。</p>
青 69	剥製	<p>ソウシチョウ</p> <p>鳴き声が美しいためにペットとして飼われていましたが、最近^{さいきん}はあちこちで野生化しています。冬になると博物館の駐^{ちゅう}車^{しゃ}場^{じょう}にもやって来ます。</p>
青 70	剥製	<p>イカル</p> <p>キーキーコーとよくとおる声で鳴きます。10羽^{わていど}程度の群^むれで移動していきます。</p>
青 71	剥製	<p>ヒレンジャク</p> <p>尾羽の先が黄色いキレンジャク^{こんぐん}と混群^{かんじ}をつくります。漢字で連雀^{れんじゃく}と書きます。</p>
青 72	剥製	<p>ヒゲガビチョウ</p> <p>もともとは中国からインドにいる鳥で、ペットとして日本に持ち込まれました。四国ではあちこちで繁殖^{はんしょく}して数を増やしています。四国以外ではあまり確認^{がいらいしゅ}されていない外来種^{がいらいしゅ}です。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
青 73	剥製	オオヨシキリ 夏のヨシ原 ^{はら} でギョギョシギョギョシと大きな声でさえずります。
青 74	剥製	キビタキ(メス) 博物館 2 階の窓ガラス ^{まど} にぶつかって死んでいました。
青 75	剥製	キビタキ(オス) 博物館 3 階の窓ガラスにぶつかって死んでいました。
青 76	剥製	アオジ(メス) 博物館 2 階の窓ガラスにぶつかって死んでいました。
青 77	剥製	ビンスイ 森林に暮らすセキレイの仲間です。枝の上を上手に歩きます。冬になると開けた環境でも見られます。
青 78	剥製	カワラヒワ 飛ぶと翼 ^{つばさ} の黄色い模様が目立ちます。
青 79	剥製	オオルリ(オス) 4月には渡って来て、大きな美しい声 ^{さえず} で囀ります。
青 80	剥製	ジョウビタキ(オス) 10月に渡って来て、梢 ^{こずえ} によくとまっています。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
青 81	剥製	<p>エナガ</p> <p>一年中みられる鳥で、ジュリジュリ鳴きながら群れて移動してゆきます。</p>
青 82	剥製	<p>アリスイ</p> <p>キツツキの仲間ですが、よく地面に^お下りてアリを食べます。</p>
青 83	剥製	<p>コゲラ</p> <p>小さなキツツキです。^{くちばし}嘴で枯れ木に穴を開けて、中にある虫を食べたり、^{すあな}巣穴をつくったりします。</p>
青 84	剥製	<p>オオアカゲラ</p> <p>大きなキツツキです。^{くちばし} ^{なまき}嘴で生木に穴を開けて、中にある虫を食べたり、^{すあな}巣穴をつくったりします。</p>
青 85	剥製	<p>フクロウ</p> <p>仁淀川町の国道33号線で、車に^ひ轢かれていた個体です。頭骨が割れていたのか、頭の形が^{しょうしょうへん}少々変です。</p>
青 86	剥製	<p>ツミ(オス)</p> <p>^{こがた}小型のタカです。^{しまんとちょう}四万十町の建物のガラスにぶつかって死んでいました。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
青 87	剥製	<p>ハイタカ(メス)</p> <p>早い速度で飛んで、小鳥を狙います。高知県では冬によく見かけます。</p>
青 88	剥製	<p>オオタカ(オス)</p> <p>最近数が増えています。環境省は2018年に希少野生動植物種から外しました。</p>
青 89	剥製	<p>ノスリ</p> <p>下から見ると白く見え、冬になると水田のまわりでネズミを捕る姿を見かけます。</p>
青 90	剥製	<p>トビ</p> <p>下から見ると茶色く見え、一年中高知の空を舞っています。</p>
青 91	剥製	<p>オオコノハズク</p> <p>中型のフクロウで、一年中高知で暮らしますが、姿はあまり見ることができません。</p>
青 92	剥製	<p>ヒヨドリ</p> <p>越知町では、冬になるとスーパーのきりんで食材として売られています。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
青 93	剥製	ツバメ ご存じ、ツバメ。最近、全国的に数が減ってきていると言われている。
青 94	剥製	ウグイス ホーホケキョと鳴く、おなじみの鳥。体の色は鶯色ではありません。
青 95	剥製	スズメ この個体は両頬と喉の黒い模様がまだ淡いので、若鳥です。
青 96	剥製	メジロ 高知県では昔から人気がある鳥です。鶯色のもとになった鳥です。
青 97	剥製	クロツグミ(メス) 5月頃に渡って来て子育てをします。地上で、ミミズや小さな昆虫をとらえます。
青 98	剥製	トラツグミ この鳥の鳴き声が妖怪「鵺」と考えられています。地上で、ミミズや小さな昆虫をとらえます。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
青 99	剥製	<p>アカハラ</p> <p>高知では冬になると平地^{へいち}にやって来ます。標高が高い所では、繁殖した記録があります。</p>
青 100	剥製	<p>シロハラ</p> <p>高知には冬を越すために渡^{わた}ってきます。ガラスによく衝突^{しょうとつ}する鳥です。12月17日にも一羽ぶつかっていました。</p>
白 1	剥製	<p>コハクチョウ(若鳥^{わかどり})</p> <p>高知県ではあまり見ることができない鳥です。この個体は、津野町の小学校のプールに迷^{まよ}ってきて、死んでしまった若鳥です。渡^{わた}りの途中で親からはぐれてしまったのでしょうか。</p>
白 2	剥製	<p>カワウ</p> <p>高知県ではかつては冬鳥でしたが、今では高知に一年中いて、子育てもしています。川魚^{かわさかな}をたくさん食べるので、漁協^{ぎょきょう}から嫌^{きら}われています</p>
白 3	剥製	<p>ゴイサギ</p> <p>夜行性のサギで、幼鳥^{ようちよう}の時と模様が全く違います。堰^{せき}で魚をとる姿をよく見かけます。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 4	剥製	アオサギ 大正15年に物部川河口で捕まえられたメスです。約100年 前の標本です。
白 5	剥製	カワラバト 神社などでよく見かけるハトです。ドバトともよばれます。
白 6	剥製	アオバト(メス) 森にすむハトです。海水を飲む習性があります。オーア ーと大きな声で鳴きます。
白 7	剥製	ツツドリ 初夏に、森の中からポポッポポッと筒をたたくような声で鳴 いているのがこの鳥です。
白 8	剥製	ホトトギス ウグイスなどの巣に卵を産んで、子育てをしてもらいます。毛 虫が大好きです。
白 9	剥製	ヒクイナ 水辺のヨシ原や田んぼで暮らすクイナの仲間です。夕方に盛 んに鳴きます。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 10	剥製	<p>アカショウビン(メス)</p> <p>森にすむカワセミのなかまで、木のうろに巣をつくり、カエルやサワガニ、ムカデを食べます。</p>
白 11	剥製	<p>カワセミ(オス)</p> <p>水辺の^{ほうせき}宝石と呼ばれる美しい鳥です。上下のくちばしが黒いのがオス、下のくちばしが赤いのがメスです。</p>
白 12	剥製	<p>シロハラミズナギドリ</p> <p>普段は海の上で暮らしていますが、台風の目に閉じ込められて^{りくち}陸地まで連れてこられる時があります。</p>
白 13	剥製	<p>セグロアジサシ(若鳥)</p> <p>台風の目に閉じ込められて、安芸市の海岸まで連れてこられてしまいました。</p>
白 14	えきしん 液浸	<p>^{だいふくしよくもんじょうちゅう} 大複殖門条虫</p> <p>サナダ^{むし}虫^{いっしゅ}の一種です。高知県安芸市に住んでいた45歳男性から1980年1月29日、2月29日、3月18日の3回に^{しぜんはいしゅつ}わたり自然排出された^{ちゅうたいだんぺん}4虫体断片です。長さはそれぞれ494 cm、352 cm、310 cm、111 cmあります。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 15	液浸	<p>ウシガエル</p> <p><small>かんきょうしょう とくていがいらいせいぶつ</small> 環境省が特定外来生物に指定しているカエルです。野外で捕まえても生きたまま移動させてはいけません。</p>
白 16	液浸	<p>ニホンヒキガエル</p> <p>四国にもともとすんでいたカエルの中では最大の種。横倉山でも<small>はんしよく</small>繁殖しています。</p>
白 17	液浸	<p>ニホンアカガエル(メス)</p> <p><small>こうちけんきしょうやせいどうぶつこうほ</small> 高知県希少野生動物候補のカエルです。越知町では、まだ見つかっていません。</p>
白 18	とうめい 透明	<p>ツチガエル</p> <p><small>きんにく ないぞう とうめい なんこつ せんしよく</small> 筋肉と内臓を透明に、骨を青色に、軟骨を赤色に染色した標本です。</p>
白 19	液浸	<p>ニホンアカガエル(オス)</p> <p>高知県では、標高が低い地域の<small>みずべ</small>水辺で産卵します。高知県中央部では産卵地が<small>さんらんち ふくすうかくにん</small>複数確認されています。</p>
白 20	液浸	<p>ヤマカガシ</p> <p>水辺でカエルや魚を食べるヘビです。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 21	液浸	ヤマカガシ おくば <small>どくが</small> 奥歯に毒牙があります。
白 22	液浸	ヤマカガシ 体を押さえつけると、首を盛んに押し付けてきます。首には毒 を出す腺 <small>せん</small> があり、そこを噛みつかせようとしているのです。
白 23	液浸	アオダイショウ 四国にいるヘビの中で一番大きくなります。人の家にも入っ てきて、ネズミや小鳥を食べます。
白 24	液浸	ミナミヤモリ 最近高知県でも見つかった外来生物で、現在その分布が <small>ちゅうもく</small> 注目されています。
白 25	液浸	タワヤモリ もともと四国にすんでいたヤモリです。ハチミツをとる箱によ く住みついています。
白 26	液浸	ニホンヤモリ ニホンと名がついていますが、古い時代に外国からやってき たことが最近分かりました。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 27	液浸	ニホンマムシ 有名な毒蛇で高知ではハメともよばれます。人は見つけたら殺したり、捕まえて焼酎に浸けたりします。
白 28	液浸	ジムグリ(幼蛇) 毒々しい模様ですが、無毒のヘビです。ミミズを食べますが、飼うのは難しい種です。
白 29	液浸	ジムグリ(幼蛇) 1mくらいの成蛇になると黒い斑点は消えて、渋い銅色になります。
白 30	剥製	ニホンマムシ 体の模様は着色です。
白 31	剥製	ヤマカガシ カラス蛇と呼ばれる黒色の個体です。
白 32	骨格	ヒメハブ 奄美大島に住んでいる友人からいただいた個体を、標本にしました。奄美大島林道を車で走ると、カエルがいそうな水辺でよく見かける毒蛇です。

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 33	骨格	<p>ニホンマムシ</p> <p>皮を剥ぎ、内臓を取り除いた後に、お湯につけて入歯洗淨剤<small>いれ ばせんじょうざい</small>で肉を溶かして、ピンセットでこまめに肉を取り除いて、骨格標本にしました。</p>
白 34	拡大模型	<p>コオニヤンマ<small>すいせいこんちゅう</small>(水生昆虫)</p> <p>大きなトンボのヤゴです。実物の体長は、30 mmくらいです。これらの昆虫は、石膏粘土<small>せっこうねんど</small>でできています。とてももろいので、あちこち壊れています。</p>
白 35	拡大模型	<p>チラカゲロウ(水生昆虫)</p> <p>速い流れがあるところにすむ水生昆虫です。実物の体長は、18 mmくらいです。</p>
白 36	拡大模型	<p>カワゲラ(水生昆虫)</p> <p>全国で普通に生息<small>せいそく</small>している水生昆虫で、調査の時にはよく見つかります。実物の体長は、22 mmくらいです。</p>
白 37	拡大模型	<p>ヒゲナガカワトビケラ(水生昆虫)</p> <p>大型のトビケラで、石や落ち葉を糸でつないでシェルターをつくります。実物の体長は、38 mmくらいです。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 38	拡大模型	<p>ヘビトンボ(水生昆虫)</p> <p>川ムカデとも呼ばれる大型の肉食昆虫<small>にくしょくこんちゅう</small>です。実物の体長は、60 mmにもなります。</p>
白 39	レプリカ	<p>タゴガエル</p> <p>森にすむカエルです。横倉山にはたくさんいます。これらのカエルは、実物から型<small>かた</small>をとり、その型に樹脂<small>じゆし</small>を流し込んで作られています。</p>
白 40	レプリカ	<p>ヌマガエル</p> <p>水温が高い田んぼで暮らすカエルです。宮<small>みや</small>の前公園<small>まえこうえん</small>のまわりにたくさんいます。</p>
白 41	レプリカ	<p>ニホンアマガエル</p> <p>最も目にするカエルではないでしょうか？雨が降りそうな天気<small>あめがふりそうなてんき</small>の時に盛んに鳴きます。体の色をかなり変えることができ、葉の上にいるときは緑、石の上などでは灰色<small>はいいろ</small>になります。</p>
白 42	レプリカ	<p>ヤマアカガエル</p> <p>博物館の水庭<small>すいてい</small>で2月頃に産卵します。繁殖期にはのどの黒い斑紋<small>はんもん</small>が目立ちます。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 43	レプリカ	<p>シュレーゲルアオガエル</p> <p>鳴き声はカスタネットを鳴らしたようです。卵はソフトクリームのような泡<small>あわ つつ</small>に包まれ、泥の中に埋められます。アマガエルに似ていますが、目のまわりに黒い模様<small>もよう</small>がないことからすぐに見分けられます。</p>
白 44	レプリカ	<p>トノサマガエル</p> <p>仁淀川流域<small>に よどがわりゅういき</small>の水田では普通に見られるカエルですが、高知県内ではいなくなった場所があります。</p>
白 45	レプリカ	<p>ツチガエル</p> <p>夏の終わりころまで繁殖期が続くカエルですが、高い水温は<small>に がて</small>苦手です。</p>
白 46	レプリカ	<p>アユ</p> <p>高知県の人が大好きな魚ですね。写真をもとにして、石膏粘土で作られています。</p>
白 47	レプリカ	<p>アマゴ</p> <p>アメゴとも呼ばれ、津野町や梶原町の沢<small>ほうりゅうこた い</small>には、放流個体ではない在来<small>ざいらい</small>と思われる模様<small>もよう</small>を持った個体が見つかっています。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 48	拡大模型	<p>ネクトカリス (バージェス動物群)</p> <p>バージェス頁岩から化石が見つかった動物で、体の前部がエビ、後部が魚に似た不思議な形をしています。これらバージェス動物群の生物は、約 5 億 500 万年前 (カンブリア紀中期) のものと考えられています。</p>
白 49	拡大模型	<p>オットイア (バージェス動物群)</p> <p>海底の砂や泥の中に潜みヒオリテスなどを捕食した軟体性の肉食動物で、ミミズなどの環形動物に分類されます。</p>
白 50	拡大模型	<p>アミスクウィア (バージェス動物群)</p> <p>背甲を持たない扁平なゼラチン状の生物で、ヒレをもち水中を泳いでいたと考えられています。実物の体長は 20 mm くらいです。</p>
白 51	拡大模型	<p>ヒオリテス (バージェス動物群)</p>
白 52	拡大模型	<p>アユシェイア (バージェス動物群)</p> <p>円筒状の胴に関節のある肢をもち、先端部の口は 6~7 本の触手で囲まれています。実物の体長は 40 mm くらいです。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 53	拡大模型	<p>ディノミスクス (バージェス動物群)</p> <p>かいめん 海綿やウミユリ、サンゴに似た柄<small>え</small>を持つ花のような動物で、 こうもん 口と肛門が確認できます。実物の体長は 40 mm くらいです。</p>
白 54	拡大模型	<p>ハルキゲニア (バージェス動物群)</p> <p>7 対のトゲと 7 対の足をもつ奇怪<small>きかい</small>な形の動物で、かつては 背中のトゲが足だと考えられていました。実物の体長は 25 mm くらいです。</p>
白 55	拡大模型	<p>オレノイデス (バージェス動物群)</p> <p>カンブリア紀に出現した硬<small>かた</small>い甲羅<small>こうら</small>をもつ節足動物<small>せつそくどうぶつ</small>の代表で さんようちゅう ある三葉虫の一種。実物の体長は 85 mm くらいです。</p>
白 56	拡大模型	<p>ウィワクシア (バージェス動物群)</p> <p>だえんけい 楕円形をした背面は、こつへん 骨片と呼ばれる甲羅と 10 本前後の 鋭いとげでおおわれています。この装甲<small>そうこう</small>で捕食者から身を守 り、海底<small>は</small>を這い回りながら餌<small>えさ</small>をさがす生活を送っていたよう です。実物の体長は 25~50 mm くらいです。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 57	拡大模型	<p>シドネユイア (バージェス動物群)</p> <p><small>るいえん</small>類縁が不明な^{<small>せつそくどうぶつ</small>}節足動物で、さまざまな生物の^{<small>けいしつ</small>}形質の特徴をそなえた^{<small>きみょう</small>}奇妙な生物です。^{<small>しょうかかん</small>}消化管の中から小型の三葉虫やヒオリテスなどが見つかっていて、多くの節足動物と同じように、食物を後方から口へと運んでいたと考えられています。</p> <p>実物の体長は 90 mm くらいです。</p>
白 58	拡大模型	<p>オドントグリフス (バージェス動物群)</p> <p>^{<small>ぞうり</small>}草履のようなこの動物には、「^{<small>なぞ</small>}歯の生えた謎」という意味の名前がつけられました。丸い口の周囲に約 25 本の歯らしきものがありますが、噛むための歯にしては小さいため、食物を集める^{<small>しよくしゅ</small>}触手の^{<small>しちゅう</small>}支柱だったと考えられます。実物の体長は 60 mm くらいです。</p>
白 59	拡大模型	<p>カナダスピス (バージェス動物群)</p> <p>バージェス頁岩から 2 番目に多く見つかる^{<small>こうかくるい</small>}甲殻類で、^{<small>げんせい</small>}現生のエビやカニの仲間です。背中は二枚貝に似た背甲でおおわれ、頭部には 2 対の^{<small>しよっかく</small>}触角があります。8 つの体節からなる胸部には、体節ごとに^{<small>ほ きやく</small>}歩脚と^{<small>さいきやく</small>}鰓脚が一對ずつ付いています。</p> <p>実物の体長は 75 mm くらいです。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 60	拡大模型	<p>オパビニア (バージェス動物群)</p> <p>バージェス動物群の中でも類縁関係がわからない謎の生物です。頭部には5つの目があり、先端が爪状に分かれた象の鼻のような奇妙な器官をもち、15の体節の側面には一対ずつヒレが付いています。実物の体長は70 mmくらいです。</p>
白 61	拡大模型	<p>アノマロカリス (バージェス動物群)</p> <p>バージェスで発見された化石の中では、飛びぬけて大きい捕食動物です。胴体は14の体節に分かれていて、中央部の幅が一番広く、体の両脇のヒレを連続的に波打たせて悠然と泳ぎ、三葉虫や他の生物を襲っていたと考えられます。実物の体長は60 cmくらいです。</p>
白 62	写真	<p>つき まんげつ 月 (満月)</p> <p>2019年9月14日撮影。月は自ら光っているのではなく、太陽の光を反射して輝く、最も身近な天体です。</p>
白 63	写真	<p>せいだん プレアデス星団 (M45)</p> <p>2018年11月11日撮影。おうし座にある散開星団で、和名では、すばると呼ばれています。</p>

ラベル 番号	しりょう 資料	かい せつ 解 説
白 64	写真	オリオン座大星雲 (M42) 2018年10月撮影。オリオン座にある散光星雲で、 星がたくさん誕生しています。
白 65	写真	石鎚山の星空 2018年10月、久万高原町の石鎚スカイラインで撮影。 残念ながら石鎚山は雲に隠れてしまいました。
白 66	写真	ふたご座流星群 2018年12月14日撮影。三大流星群の一つです。
白 67	拡大模型	カイコ(幼虫) 石膏粘土で作りました。実物の体長は60mmくらいです。
白 68	拡大模型	ニホンアマガエル
白 69	標本	オオゴキブリ 森林の中で朽木を食べて暮らすゴキブリです。
白 70	標本	コガタノゲンゴロウ 博物館の水庭で捕まえた個体で、友の会会員の中学生が 標本にしました。
白 71	標本	ヤマトタマムシ 博物館の展示室内で死んでいた個体です。駐車場では、よ く飛んでいます。
白 72	標本	トビズムカデ 博物館の自動扉前で見つけ、しばらく飼育展示していた 個体です。コオロギが大好物でした。